

愛媛大学医学部附属病院 放射線部

Ehime University Hospital
Department of Radiation



施設紹介

昭和48年に愛媛大学に医学部が設置され、昭和51年に医学部の附属病院（現在の愛媛大学医学部附属病院）として開設されました。平成6年に特定機能病院として承認されました。これまでに「災害拠点病院」、「地域がん診療連携拠点病院」、「第一種感染症指定医療機関」、「難病医療拠点病院」、「愛媛県原子力災害拠点病院」、「がんゲノム医療連携病院」などの指定を受けてきました。現在の病床数は626床になります。愛媛県の県庁所在地である松山市から車で30分程の東温市に開院しております。



基本方針・基本理念

愛媛大学医学部附属病院の創設以来の基本理念は、「患者から学び、患者に還元する病院」となります。また、①愛媛県民から信頼され愛される病院、②患者さんの立場に立てる医療人の養成、③愛媛で育ち、世界に羽ばたく医療の創造、を目標としています。この基本理念と目標を軸とし、放射線部においては、年度毎に部内目標を立て、日々の適切な業務の遂行を目指します。

組織・人員管理体制

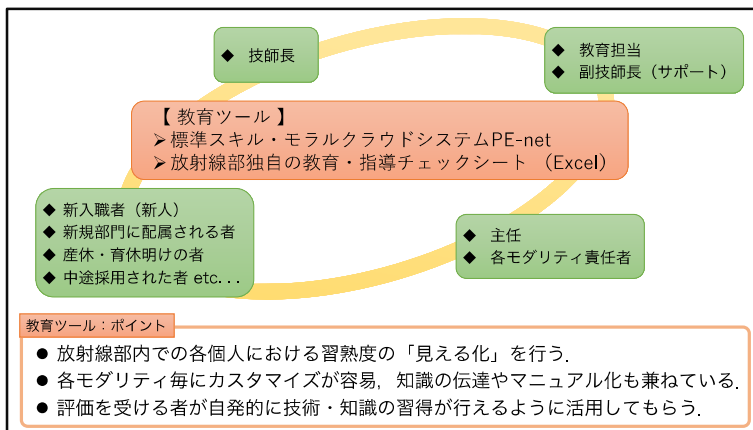
放射線部は、令和4年現在、診療放射線技師35名（技師長1名、副技師長2名、主任技師7名、再雇用1名を含む）、男性が27名、女性が8名です。看護師12名（師長1名、副師長1名を含む）、技術補佐員1名、事務補佐員1名体制で業務を行なっています。

病院内の組織としては、放射線部は診療放射線技術部門としての役割を担っています。平成17年に診療上必要とする各種医療技術の提供を円滑に行い、診療内容の充実・向上に貢献することを目的とする診療支援部が設置されました。3部門で組織されており、「診療放射線技術部門」には診療放射線技師を、「臨床検査技術部門」には臨床検査技師を、「医科・歯科医療技術部門」には臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語聴覚士、歯科技工士、歯科衛生士、社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士、認定遺伝カウンセラ

一の職種が包括され、総勢160名を超える人員で構成されています。

新人教育と若手人材育成

「一般撮影室」、「透視室」、「CT室」、「MRI室」、「核医学検査室」、「血管撮影室」、「放射線治療室」の各モダリティに副技師長や主任、および専従・専任する者を責任者として配置しています。その他の勤務は、各モダリティを一定期間のサイクルでローテーションするシフト勤務となります。



新入職者（新人）への教育に関しては、原則として、まず初めに「一般撮影室」に配属され、一般撮影室業務（オペ室・病室ポータブル撮影含む）の習得に専念してもらいます。女性の場合は、マンモグラフィ撮影業務を合わせて習得し、検診マンモグラフィ撮影認定試験にて認定資格の取得を目指してもらいます。車椅子患者や小児患者、ベッド上安静患者など多岐にわたる状況を経験してもらいます。そして、患者接遇と状況対応能力、撮影技術や病気、病状などの知識向上に努めてもらい、医療人としての自覚と責任感を学生から社会人へと転換してもらう大事な時期であるため、指導・教育を行う責任者も、その心構えをもって対応しています。約1年前後の期間の中で、「一般撮影室」と「CT室」の業務を経験し、日直・当直業務に配属されるようになることを目標に、指導・教育を行っていきます。また、毎年行われる愛媛県診療放射線技師学術大会で、一般口演での発表を経験してもらいます。地方会や全国学会発表、海外学会発表などができるように、診療放射線技師としての学会発表の第一歩を踏み出すお手伝いをします。日々の臨床から研究テーマを導き、研究や実験を通して自己研鑽と日々の臨床に生かしてもらうことが目的です。

新人・若手の人材育成においては、全国国立大学病院共通の人材育成支援システムである「標準スキル・モラルクラウドシステム PE-net」を活用しています。活用していた中で、①各モダリティの装置毎や検査毎の習熟度を把握したい、②誰がどの内容を指導し指導した日はいつなのか、③周辺医療機器の指導記録と習熟度の把握、④責任者や指導者の指導内容の漏れ防止と指導内容の更新など、細部に対応する必要性が発生したため、放射線部独自の教育・指導チェックシートを作成し、上記のシステムと合わせて2種類の教育ツールを用いて、人材育成を行っています。

施設の装置について

CT室	256列, 320列, Dual Source CT
-----	----------------------------

MRI 室	1.5T, 3T, 3T
血管撮影室	IVR-CT (1 台), バイプレーン (2 台)
アイソトープ室	SPECT, SPECT/CT
PET センター	PET/CT
一般撮影室	一般撮影装置 (3 台), マンモグラフィ装置, 骨塩定量装置,
	デンタル撮影装置, コーンビーム CT 装置, トモシンセシス
透視室	透視装置 (2 台), マンモトーム装置
放射線治療室	リニアック (2 台), ラルス装置

※その他、放射線部関連装置が複数あり

施設のアピールポイント

愛媛大学医学部附属病院の放射線科は、様々な診断と治療を行ってきた中で、循環器領域に力を入れてきた歴史があります。近年では、「心臓」の領域が特徴的です。その時代の最新装置の導入や機器の更新に伴い、CT、MRI、核医学分野での最新の画像撮影技術の構築と新たな解析方法・ソフトウェアの開発を進めてきました。数々の特許も取得しており、全国的にも「心臓」のキーワードで名前が上がる施設であると自信を持って言えます。各診療科医師や放射線科医師、放射線部看護師、診療放射線技師が密に連携できているため、様々な研究を行う際に、容易に相互の協力関係が結べる環境にあります。

また、放射線部では、毎週木曜日の始業前に各モダリティ責任者が集まりミーティングを実施しています。ミーティングでは、今後の方向性や日々の必要事項などの情報交換が行われます。この事からも、働きやすい職場環境である事を想像いただけると思います。働き方改革やタスクシフトが言われる時代となりましたが、「みんなが働きやすい職場環境」は、勤務者を良い方向へ導き、良い画像診断・治療を患者へ還元することができると思じて日々の診療と向き合っています。

最後に

施設見学や研修の希望がありましたらぜひお知らせください。学生の方々や就業している方も大歓迎です。放射線部一同、皆様の来院をお待ちしております。来ていただいた皆様と交流し、診療放射線技師の職業を選んだ同志として、お互いに良い刺激になればと思います。

(文責：石村 隼人)